

学位論文

「幼児期の語彙発達に関する調査研究  
—理解語彙と表出語彙の品詞別の様相」

指導教授名 原 由紀

申請者氏名 水戸 陽子

## 著者の宣言

本学位論文は、著者の責任において実験を遂行し、得られた真実の結果に基づいて正確に作成したものに相違ないことをここに宣言する。

## 要旨

子どもの語彙は、表出語彙数が 50 語を過ぎる 1 歳半ごろから爆発的に増加し始める。獲得語彙数は 3 歳で約 1000 語、6 歳で約 3000 語と推計され、小学校入学前まで 1 日に約 9 語獲得していくといわれている。語彙発達と文法発達には連続性があり、表出語彙が 50 語以上に増加したところから 2 語文を表出できるようになる。さらに、より高次の意味的処理や統語水準は抽象度のより高い語彙の習得や語彙の広がりによって導かれる。

語彙発達の様相として、言語発達初期の子どもは名詞を習得しやすい傾向があり、その後、名詞、動詞、形容詞の順で語彙が増えていく。また、24 か月時において表出できる語彙動詞が多様であるほど、後の文法発達が促される可能性が示唆されている。

このように、語彙の発達は、言語獲得の中核的要素の一つである。しかし、これまでに本邦で報告されている語彙発達の研究は、少数サンプルの縦断的研究が主であり、多数のサンプルにより子どもの言語発達の輪郭を明らかにしようとする横断的研究は報告が少ない。したがって語彙の発達の具体的な様相については、さらに知見の蓄積が求められている状況であるといえよう。研究の蓄積が必要な理由の一つとして、語彙発達の様相の解明が、言語発達の遅れの早期発見と指導支援の指標のエビデンスの一つとなり得るのである。

そこで本研究では、幼児期の語彙発達の様相の基礎的データを収集することを目的として、2 歳～6 歳児に調査を実施し、標準的な言語発達のデータを得ることを試みた。

## 方法

対象は、関東大都市圏および東北地方都市圏の保育園、幼稚園に所属する 2 歳から 6 歳の 232 名である。先行研究（水戸ら、2023）をもとに作成した理解語彙課題、表出語彙課題を実施した。両課題ともに、名詞 60 語、動詞 26 語、形容詞/形容動詞 15 語で構成されている。

各課題（理解課題，表出課題）の品詞別（名詞，動詞，形容詞）における平均正答数を算出した。各品詞の課題語彙数に対する正答数の割合を平均正答率（％）として算出した。これらの平均正答数および平均正答率に対し，分析対象者全体に加え，年齢群別（2歳後半～6歳前半の8群），性別（男児，女児），地域別（関東大都市圏，東北地方都市圏）について，要約統計量を算出した。さらに，性別及び地域別の平均正答数もしくは平均正答率について，年齢群別に群間比較（性別間，地域間）を行った。検定には，対応のない t 検定を用いた。また，各語彙別の平均正答率から 75%通過年齢を算出するとともに，表出課題の動詞および形容詞/形容動詞の各語彙については，ヒントの有無での平均正答率の違いを検討した。

## 結果

理解課題および表出課題ともに，全ての品詞において，年齢上昇に伴う平均正答数の上昇を認めた。性差の分析では，両課題ともに，名詞では，いずれの年齢群においても有意差を認めないものの，動詞，形容詞/形容動詞では，主に 3 歳後半群にて，男児に比べ女児で平均正答率が有意に高いことを認めた（理解課題；動詞  $P = 0.011$ ，形容詞/形容動詞  $P = 0.005$ ，表出課題；動詞  $P = 0.032$ ，形容詞/形容動詞  $P = 0.008$ ）。地域差の分析では，理解課題及び表出課題における地域ごとの年齢群別の平均正答数の推移には，一部 5 歳前半を除き，明確な差は認められなかった。表出課題における名詞「ゆき」では，全分析対象者の平均正答率が関東大都市圏では 33.1%，東北地方都市圏では 78.9%であり，45.8%の差を認めた。

またほぼすべての語彙は，年齢の上昇に伴い平均正答率が上昇しており，各語彙の 75%通過年齢を得ることができた。表出課題の動詞および形容詞/形容動詞の各語彙については，ヒント無に比べ，ヒント有の方が平均正答率は高い傾向を示した。



## 考察・結論

いずれの品詞においても、年齢の上昇とともに理解語彙、表出語彙が増えることが確認された。また、地域によって経験の差が生じやすい事象については、子どもにとっての頻度や親密度が異なり、習得年齢に差がある可能性が示唆された。さらに、表出課題におけるヒントの有無による平均正答率の違いは、名詞、動詞、形容詞/形容動詞の語彙の喚語等の表出に至る過程の違いを現している可能性が推測された。

今回得られた2歳～6歳児の標準的な言語発達のデータをもとに、言語発達の遅れの早期発見と指導支援のエビデンスとしての指標となり得る検査の開発につなげていきたい。

## 目次

1. 序論	- 1 -
2. 方法	- 2 -
2-1. 参加者	- 2 -
2-2. 課題	- 3 -
2-2-1. 課題語	- 3 -
2-2-2. 施行順序および年齢群ごとの開始点と中止基準	- 6 -
2-2-3. 図版	- 7 -
2-2-4. 手続き	- 10 -
2-3. 採点基準	- 10 -
2-4. 統計分析	- 11 -
3. 結果	- 12 -
3-1. 理解課題および表出課題における品詞ごとの各年齢群の平均正答数	- 12 -
3-2. 性別ごとの各年齢群の平均正答率	- 12 -
3-3. 地域ごとの各年齢群の平均正答数および平均正答率	- 13 -
3-4. 各課題における各品詞の語彙ごとの平均正答率と75%通過年齢	- 14 -
3-5. 動詞, 形容詞/形容動詞のヒント有を含めた平均正答率と75%通過年齢	- 22 -
3-6. 設定した正答と異なる回答について	- 24 -
4. 考察	- 25 -
4-1. 年齢に伴う理解語彙, 表出語彙の平均正答数の変化	- 25 -
4-2. 性別の影響	- 26 -
4-3. 地域環境の影響	- 26 -
4-4. 各語彙の平均正答率と75%通過年齢について	- 27 -
4-5. 表出課題の動詞, 形容詞/形容動詞のヒントについて	- 28 -
4-6. 設定した正答と異なる表現の回答について	- 29 -
5. 総括	- 29 -
6. 今後の課題	- 30 -
7. 謝辞	- 30 -
8. 引用文献	- 31 -
9. 業績目録	- 33 -

## 1. 序論

子どもの語彙は、表出語彙数が 50 語を過ぎる 1 歳半ごろから爆発的に増加し始める。獲得語彙数は 3 歳で約 1000 語、6 歳で約 3000 語と推計され、小学校入学前まで 1 日に約 9 語獲得していくといわれている<sup>1,2</sup>。語彙発達と文法発達には連続性があり、表出語彙が 50 語以上に増加したころから 2 語文を表出できるようになる<sup>3</sup>。より高次の意味的处理や統語水準は抽象度のより高い語彙の習得や語彙の広がりによって導かれる<sup>4</sup>。

語彙発達の様相について、Bates, Marchman, Thal, et al. (1994) は、1 歳 4 ヶ月から 2 歳 6 ヶ月の幼児を対象とした表出語彙の調査を行い、まず名詞の語彙が増え、次いで動詞と形容詞が増えていくことを報告している<sup>5</sup>。また、24 か月時において表出できる語彙動詞が多様であるほど、後の文法発達が促される可能性が示唆されている<sup>6</sup>。本邦では、小椋 (2007) が、日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙を用いて初期の語彙の構成について調査し、言語発達初期の子どもは名詞を習得しやすい傾向があることを明らかにした<sup>7</sup>。

このように、言語発達が進む基盤として、語彙は言語的スキルが広がるための土台のひとつであり<sup>8</sup>、語彙発達は言語獲得の中核的要素の一つとなっている<sup>9</sup>。しかし、これまでに本邦で報告されている語彙発達の研究は、少数サンプルの縦断的研究が主であり、多数のサンプルにより子どもの言語発達の輪郭を明らかにしようとする横断的研究の報告が少ない<sup>10</sup>。さらに、語彙発達に関する研究は、上記のような主に幼児前期に焦点を当てた研究が散見される一方、幼児後期、学童期を対象とした報告はほとんどない。最近、水戸ら (2023) の横断的研究で 20 年前の調査データが報告されたが、時間的経過や社会状況の変化に伴って語彙が変化している可能性は否定できない。

したがって語彙の発達の具体的な様相については、さらに知見の蓄積が求められている

状況であるといえよう。子どもの言語発達の問題は、初語の表出の遅れとして現れることが多い。言語発達に遅れのある子どものうち、レイトトーカーは標準的な発達の子どもに比べて動詞の表出語彙数が少ないこと、特異的言語発達障害のある子どもは、その年齢としては限られた範囲の語彙しか持っていないことなどが報告されている<sup>11,12</sup>。このように言語発達障害の臨床において、語彙の問題は非常に重要であり、語彙発達の様相の解明は、言語発達の遅れの早期発見と指導支援の指標のエビデンスの一つとなり得るのである。

そこで我々は、幼児期の語彙発達の様相の基礎的データを収集することを目的として、2歳～6歳児に調査を実施し、標準的な言語発達のデータを得ることを試みた。本研究は水戸ら（2023）の発展的研究であり、個別の調査であったことや理解・表出検査を実施した点は同一であったが、各課題語の施行順序や形容詞・形容動詞課題の追加およびヒントを導入した点など、実施方法にいくつか変更点があった<sup>13</sup>。

## 2. 方法

### 2-1. 参加者

調査は、2021年5月～8月に行った。対象は、関東大都市圏および東北地方都市圏の保育園、幼稚園に所属する2歳から6歳の232名である。新版K式発達検査2020の「形の弁別Ⅰ」、「形の弁別Ⅱ」、「トラックの模倣」、「積木の塔8個」の通過年齢が生活年齢相応、もしくはWechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence - Third Edition (WPPSI-III)<sup>14</sup>およびWechsler Intelligence Scale for Children - Fourth Edition (WISC-IV)<sup>15</sup>の「積木模様」の評価点が±2SD以内であった計225名（男児101名、女児124名）を分析

対象とした。分析対象児の内訳を表 1 に示す。

対象児が所属する園の園長と保護者に対し、研究への参加について文書で説明し、書面による同意を得たのち、調査を実施した。対象児には調査時に口頭でインフォームドアセントを行った。本研究は、北里大学医療衛生学部研究倫理審査委員会における承認を受けている（承認番号：2020-017，2020年9月16日承認）。

表 1. 分析対象児の内訳

年齢群	年齢範囲	男児	女児	計（人）
2歳後半	2:6~2:11	3	9	12
3歳前半	3:0~3:5	10	16	26
3歳後半	3:6~3:11	12	19	31
4歳前半	4:0~4:5	12	15	27
4歳後半	4:6~4:11	14	17	31
5歳前半	5:0~5:5	21	22	43
5歳後半	5:6~5:11	15	15	30
6歳前半	6:0~6:5	14	8	22
	計	101	121	222

## 2-2. 課題

### 2-2-1. 課題語

理解課題、表出課題があり、両課題ともに、名詞 60 語、動詞 26 語、形容詞・形容動詞 15 語で構成されている。各品詞の課題語を表 2-1、表 2-2 に示す。形容詞・形容動詞の課題語については、水戸（2023）の先行研究にて得られた平均正答率によれば、難易度の勾配が適切でなかった可能性が考えられたため、小椋ら（2016）の月齢ごとの語彙項目出現

率を参考に、新たに「きれい」「さむい」を課題語に加えた。

表 2-1. 理解課題の語彙（課題語横の数字は施行順序）

		名詞（60 語）				動詞（26 語）		形容詞/形容動詞(15 語)	
1	車	21	運動会	41	集合	1	食べる	1	大きい
2	魚	22	茶碗	42	演奏	2	泣く	2	きれい
3	電話	23	家族	43	満月	3	歌う	3	寒い
4	時計	24	身体検査	44	湯気	4	座る	4	速い
5	雪	25	橋	45	親切	5	溶ける	5	重い
6	耳	26	月	46	海水浴	6	捨てる	6	冷たい
7	動物	27	天気	47	建物	7	飲む	7	少ない
8	花	28	台所	48	食器	8	見る	8	短い
9	トマト	29	ナイフ	49	城	9	蹴る	9	暗い
10	電気	30	クモ	50	機械	10	乗る	10	怖い
11	黒	31	噴水	51	自然	11	帰る	11	深い
12	注射	32	うきわ	52	季節	12	押す	12	広い
13	白	33	台風	53	配達	13	枯れる	13	遠い
14	桜	34	楽器	54	勝負	14	打つ	14	まっすぐ
15	歯	35	さかさま	55	交通	15	進む	15	辛い
16	虹	36	枝	56	衝突	16	そろえる		
17	畑	37	切手	57	植物	17	めくる		
18	朝	38	スキー	58	植木鉢	18	拭く		
19	青	39	七夕	59	頂上	19	育つ		
20	茶色	40	スポーツ	60	農業	20	描く		
						21	落とす		
						22	吠える		
						23	余る		
						24	住む		
						25	担ぐ		
						26	競う		



表 2-2. 表出課題の語彙（課題語横の数字は施行順序）

		名詞（60語）				動詞（26語）		形容詞/形容動詞（15語）	
1	象	21	電気	41	畑	1	食べる	練習問題	大きい
2	ぼうし	22	ボール	42	歯医者	2	座る	1	小さい
3	傘	23	緑	43	茶碗	3	泣く	2	きれい
4	滑り台	24	ボタン	44	スキー	4	見る	3	寒い
5	電話	25	クモ	45	下	5	歩く	4	暗い
6	りんご	26	耳	46	天気	6	飲む	5	重い
7	ズボン	27	茶色	47	家族	7	乗る	6	怖い
8	花	28	月	48	橋	8	洗う	7	辛い
9	時計	29	歯	49	握手	9	拭く	8	広い
10	船	30	ピアノ	50	朝	10	降りる	9	遠い
11	車	31	雪	51	さかさま	11	枯れる	10	まっすぐ
12	箸	32	動物	52	飲み物	12	捨てる	11	冷たい
13	かたつむり	33	工事	53	右	13	切る	12	少ない
14	魚	34	桜	54	切手	14	絞る	13	深い
15	牛乳	35	カレンダー	55	うきわ	15	蹴る	14	速い
16	黄色	36	公園	56	噴水	16	吠える	15	短い
17	白	37	台所	57	太陽	17	溶ける		
18	トマト	38	注射	58	挨拶	18	ぶつかる		
19	花火	39	やかん	59	台風	19	落とす		
20	虹	40	野菜	60	運動会	20	咲く		
						21	帰る		
						22	打つ		
						23	そろえる		
						24	余る		
						25	押す		
						26	運ぶ		



## 2-2-2. 施行順序および年齢群ごとの開始点と中止基準

理解課題，表出課題すべての課題語を実施することは，対象児にとって負担が大きいと考え，名詞と動詞に開始年齢を，名詞，動詞，形容詞/形容動詞に中止基準を設けた。施行順序と年齢群ごとの開始点の設定の例を表3に示す。

水戸ら（2023）は，生活年齢とその前後1年の年齢で初発した語で構成した，年齢ごとの語リストを作成し，語リスト単位で開始年齢および中止基準を設けて調査をしている。その結果，語彙リストの設定年齢と75%通過年齢に2歳以上の差がみられた語彙があった。そのため本研究では，水戸ら（2023）の結果をもとに，低年齢の群から，年齢群ごとに各語彙の平均正答率を降順に並べ替え，平均正答率降順の難易度による施行順序を目指した。各語彙の平均正答率は年齢群によって異なるため，年齢群ごとに順に並び替えを行うと，年齢群ごとにみた各語彙の平均正答率は一律の降順とはならなかったが，平均正答率0.90以上であればその年齢群の子どもは正答可能とみなし，概ね難易度順の施行順序になるよう調整した。

年齢群ごとの開始点は，各年齢群で平均正答率が最初に0.90未満になった課題語から3つ遡り，その語をその年齢群の開始点とした。例えば，2歳後半群では，「雪」で平均正答率0.85なので，3つ遡って「魚」を開始点とした。開始点の課題語を含む最初の3つの課題語に正答した場合，それよりも前の課題語は正答したものとみなし，誤答があった場合は，連続3問正答するところまで遡り，施行した。

中止基準は，連続5問誤答とし，最後に正答した課題語を上限とした。

表 3. 施行順序と年齢群ごとの開始点の設定の例

施行順序	課題語	平均正答率 (20 年前のデータ) <sup>13</sup>				年齢群ごとの開始点
		2 歳後半	3 歳前半	3 歳後半	4 歳前半	
1	車	0.96	0.95	1.00	1.00	
2	魚	1.00	1.00	1.00	0.94	2:6~2:11
3	電話	1.00	1.00	1.00	0.97	
4	時計	0.96	0.95	1.00	0.97	
5	雪	0.85	1.00	1.00	0.97	
6	耳	0.85	0.95	1.00	0.97	3:0~3:5
7	動物	0.88	0.91	1.00	0.97	
8	花	0.85	0.95	0.96	0.97	
9	トマト	0.88	0.86	0.96	0.97	
10	電気	0.81	0.95	0.91	0.97	
11	黒	0.77	0.86	0.91	1.00	
12	注射	0.65	0.77	1.00	0.97	3:6~3:11
13	白	0.42	0.77	1.00	0.97	
14	桜	0.65	0.86	0.96	1.00	
15	歯	0.69	0.86	0.87	0.97	
16	虹	0.62	0.55	0.91	0.92	

### 2-2-3. 図版

各図版のイラストは、プロのイラストレーターが作成した。臨床経験 10 年以上の言語聴覚士 4 名が絵の分かりやすさや語彙に対する絵の適切性を検討し、分かりにくいと判断されたイラストは修正した。理解課題の 1 シートは、A4 サイズで、1 シートにつき課題語 1 語を含む 6 点のイラストで構成され、名詞課題では、正答以外は課題語との意味的および音節数の関連性を考慮したイラストを配置した。理解課題の図版の例を図 1-1-1, 図 1-1-2, 図 1-1-3 に示す。表出課題の名詞と動詞は、葉書サイズの 1 シートにつき 1 語のイラスト、形容詞・形容動詞は A6 サイズの 1 シートに、1 語とその対語の 2 点のイラストを上下に配置した。表出課題の図版の例を図 1-2-1, 図 1-2-2, 図 1-2-3 に示す。

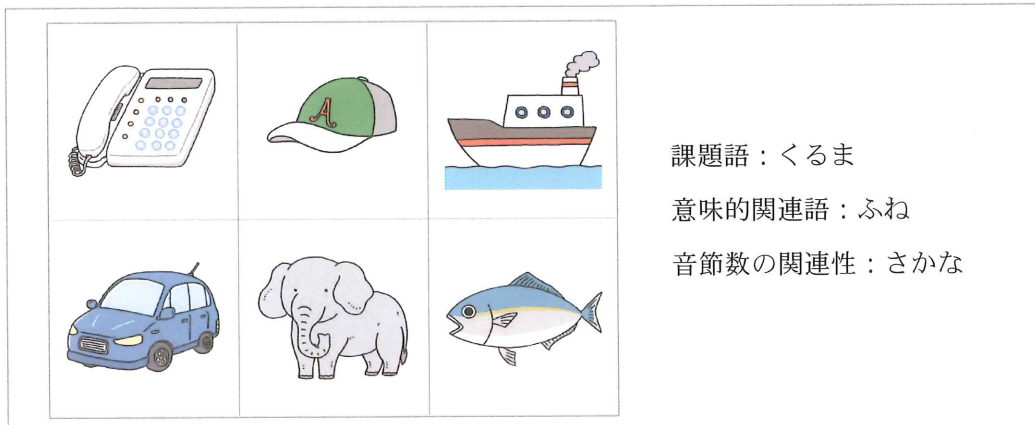


図 1-1-1. 図版の例：理解課題の名詞



図 1-1-2. 図版の例：理解課題の動詞



図 1-1-3. 図版の例：理解課題の形容詞/形容動詞



図 1-2-1. 図版の例：表出課題の名詞（左：ピアノ 右：公園）

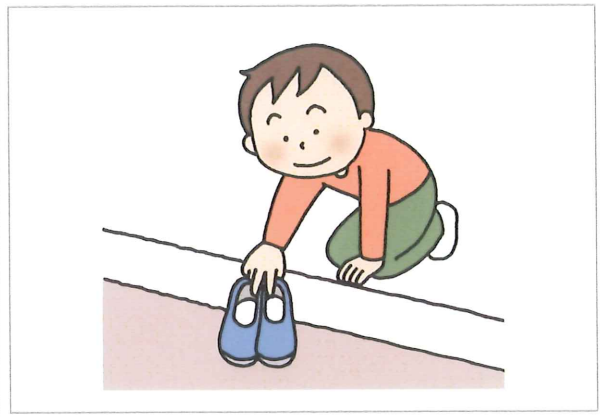


図 1-2-2. 図版の例：表出課題の動詞（左：食べる 右：そろえる）



図 1-2-3. 図版の例：表出課題の形容詞（左：冷たい 右：少ない）

#### 2-2-4. 手続き

課題の施行順序は、表出課題、理解課題の順とし、両課題ともに、名詞、動詞、形容詞/形容動詞の順で実施した。施行時間は20分程度であった。調査は、対象児の所属する園にて研究者および研究協力者が個別に行った。表出課題は、ICレコーダー（SONY製PCM-A10）にて回答を録音した。

表出課題は、名詞、動詞は絵カードの呼称を促した。名詞は、「これは何？」と尋ね、課題語が色名の場合は「何色？」、「動物」や「飲み物」などの概念を表す課題語の場合は、「みんなまとめて何と言う？」と尋ねた。動詞は、「何している？」と尋ね、他動詞の課題語にて正答でなかった場合、ヒントとして、「事物一用途」のつながりになる名詞句を音声呈示した（例：課題語「食べる」に対し、「ご飯を…？」、「座る」に対し、「椅子に…？」）。形容詞/形容動詞は、図版の呈示とともに、「両方よく見てください。（課題語のイラストの方をさして）こちらはどうか。」といった教示を行い、対語と課題語のイラストに注目させることで視覚的に比較をさせて表出を促した<sup>16</sup>。正答でなかった場合、ヒントとして対語の音声呈示をし、再度課題語の表出を促した。課題の理解を促すため、最初に練習問題「大きい」を1問行い、正誤に関わらず正答を教えた。

理解課題は、すべての品詞について、音声で成人語を1回呈示し、対応する絵を6枚の絵の中から選択して指さしをしてもらった。

#### 2-3. 採点基準

表出課題は、課題語を含む発話および自己修正にて表出した場合を正答、ヒント後に正答した場合をヒント後正答とした。幼児語は誤答とした。本研究は、幼児語とは、慣用的



に育児語として用いられている語で、基本的には幼児の構音しやすい音声からなる同音反復の擬音語とした<sup>17,18</sup>。動詞、形容詞/形容動詞は、課題語の語幹が含まれていれば正答とした。動詞連用形名詞は、誤答とした（例：洗う→皿洗い、捨てる→ごみ捨て）。

理解課題は、自己修正を含み正しく選択した場合を正答とした。

#### 2-4. 統計分析

本研究は、探索的調査研究として、研究実施期間内の協力施設における、参加同意を得られた全幼児数をもってサンプルサイズとした。各課題（理解課題、表出課題）の品詞別（名詞、動詞、形容詞/形容動詞）における平均正答数を算出した。また、各品詞の課題語彙数に対する正答数の割合を平均正答率（%）として算出した。

これらの平均正答数および平均正答率に対し、分析対象者全体に加え、年齢群別（2歳後半～6歳前半）、性別（男児、女児）、地域別（関東大都市圏、東北地方都市圏）について、要約統計量を算出した。さらに、性別及び地域別の平均正答数もしくは平均正答率について、年齢群別に群間比較（性別間、地域間）を行った。検定には、対応のない t 検定を用いた。

また、各語彙について、年齢群ごとの平均正答率を算出し、75%の参加者が正答となる最小の年齢群（75%通過年齢）を算出した。

全ての解析は、SPSS ver24.0 (IBM Japan, Ltd.)にて行った。統計学的有意水準は両側5%とした。

### 3. 結果

#### 3-1. 理解課題および表出課題における品詞ごとの各年齢群の平均正答数

理解課題及び表出課題における年齢群別の平均正答数の推移を表 4 に示す。理解課題および表出課題ともに、名詞、動詞、形容詞/形容動詞全ての品詞において、年齢上昇に伴う平均正答数の上昇を認めた。

名詞においては、3 歳後半以下を除き、表出課題より理解課題での平均正答数が高くなることを認めた。また理解課題では、いずれの品詞においても 3 歳後半から 4 歳前半にかけて正答数の上昇幅が大きくなる傾向を認めた（名詞：29.6±8.0→ 43.2±7.3 [+13.6]，動詞：14.1±5.0→ 19.3±4.8 [+5.2]，形容詞/形容動詞：9.2±3.1→ 12.8±1.4 [+3.6]）。

表 4. 理解課題及び表出課題における年齢群別の平均正答数（括弧内は標準偏差）

年齢群	理解課題			表出課題		
	名詞 (60語)	動詞 (26語)	形容詞 形容動詞 (15語)	名詞 (60語)	動詞 (26語)	形容詞 形容動詞 (15語)
2歳後	16.8 ( 5.8 )	7.9 ( 3.3 )	5.5 ( 3.7 )	19.4 ( 7.0 )	3.8 ( 3.1 )	1.1 ( 1.2 )
3歳前	26.5 ( 10.0 )	11.3 ( 5.3 )	8.4 ( 3.8 )	27.3 ( 7.5 )	6.9 ( 4.0 )	2.4 ( 2.1 )
3歳後	29.6 ( 8.0 )	14.1 ( 5.0 )	9.2 ( 3.1 )	31.6 ( 7.7 )	9.3 ( 4.6 )	3.3 ( 2.5 )
4歳前	43.2 ( 7.3 )	19.3 ( 4.8 )	12.8 ( 1.4 )	38.7 ( 5.9 )	12.1 ( 3.4 )	5.3 ( 3.3 )
4歳後	47.0 ( 7.5 )	20.9 ( 2.4 )	12.8 ( 2.5 )	40.4 ( 5.6 )	13.7 ( 1.7 )	6.5 ( 2.4 )
5歳前	53.8 ( 5.3 )	22.8 ( 2.2 )	14.1 ( 1.1 )	47.3 ( 4.9 )	16.0 ( 3.3 )	7.9 ( 3.1 )
5歳後	55.1 ( 3.4 )	23.3 ( 1.6 )	14.3 ( 0.9 )	47.4 ( 6.3 )	16.9 ( 3.2 )	9.0 ( 3.3 )
6歳前	56.5 ( 3.7 )	24.7 ( 1.2 )	14.5 ( 1.1 )	49.9 ( 5.8 )	18.4 ( 3.1 )	9.5 ( 3.6 )

#### 3-2. 性別ごとの各年齢群の平均正答率

理解課題では、名詞は、いずれの年齢群においても有意な性差は認めなかった。動詞お



よび形容詞/形容動詞は、4歳前半以降に有意差は認めない一方、3歳後半以下では、男児に比べ女児で正答数が高くなる傾向があった。動詞では3歳後半 ( $P = 0.011$ )、形容詞/形容動詞では2歳後半および3歳後半で有意差を認めた ( $P = 0.022$  [2歳後半],  $P = 0.005$  [3歳後半])。

表出課題では、名詞は、いずれの年齢群においても有意な性差は認めなかった。動詞は、3歳後半、4歳前半 ( $P = 0.032$  [3歳後半, 4歳前半])、形容詞/形容動詞は、3歳後半、5歳後半で男児に比べ女児で正答率が有意に高いことを認めた ( $P = 0.008$  [3歳後半],  $P = 0.011$  [5歳後半])。

### 3-3. 地域ごとの各年齢群の平均正答数および平均正答率

地域別の分析対象児内訳は、首都圏大都市 154 名、と東北圏地方都 71 名であった。理解課題及び表出課題における地域ごとの年齢群別の平均正答数の推移には、一部 5 歳前半を除き、明確な有意差は認められなかった。

また一部の語で、平均正答率の地域間差を認めた。表出課題における名詞「ゆき」の地域別の平均正答率を図 2 に示す。首都圏大都市では全分析対象者の平均正答率が 33.1%、東北圏地方都市では 78.9%であり、45.8%の差を認めた。両地域ともに、6歳前半で 100%になるが、首都圏大都市では、年齢の増加に伴った一貫した増加傾向がみられない一方、東北圏地方都市では、3歳後半の時点で 6割以上であった。

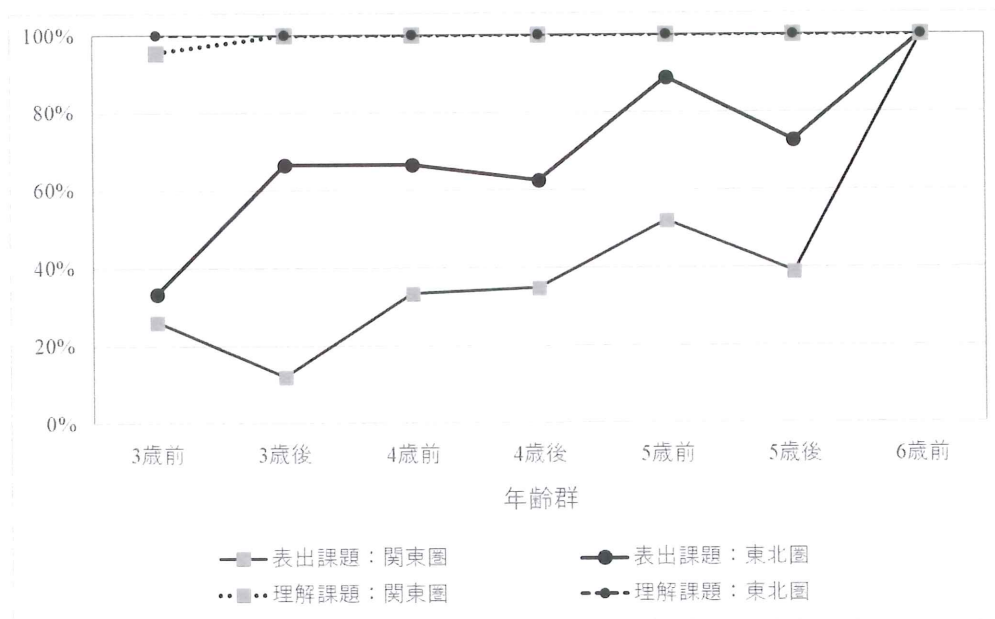


図 2. 表出課題における名詞「ゆき」の地域別の平均正答率

### 3-4. 各課題における各品詞の語彙ごとの平均正答率と 75%通過年齢

理解課題における各品詞の語彙ごとの平均正答率と 75%通過年齢について表 5-1-1, 表 5-1-2, 表 5-2, 表 5-3 に示す。いずれの語彙も, 平均正答率は年齢の上昇に伴い上昇しており, ほぼすべての語彙について 75%通過年齢を得ることができた。

表出課題における各品詞の語彙ごとの平均正答率と 75%通過年齢について表 6-1-1, 表 6-1-2, 表 6-2, 表 6-3 に示す。いずれの語彙も, 平均正答率は年齢の上昇に伴い上昇していたが, 各品詞の施行順序後半の語彙は, 6 歳後半までに 75%通過年齢を得ることができない語が散見された。

表 5-1-1. 理解課題：名詞の語彙ごと（No.1～30）の平均正答率（％）と 75％通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	車	99.5	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
2	魚	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
3	電話	98.6	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
4	時計	99.5	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
5	雪	95.9	50.0	95.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
6	耳	96.3	66.7	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
7	動物	97.7	75.0	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
8	花	95.0	66.7	70.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳後半
9	トマト	99.1	91.7	95.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
10	電気	95.0	58.3	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
11	黒	95.9	58.3	87.5	96.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
12	注射	98.2	91.7	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
13	白	95.0	66.7	87.5	89.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
14	桜	94.0	83.3	70.8	89.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
15	歯	83.5	33.3	37.5	65.5	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
16	虹	94.0	50.0	79.2	93.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
17	畑	89.0	41.7	45.8	89.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳後半
18	朝	91.7	50.0	66.7	89.7	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	3歳後半
19	青	93.1	66.7	83.3	79.3	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	3歳前半
20	茶色	91.3	58.3	83.3	75.9	96.2	96.8	100.0	100.0	100.0	3歳前半
21	運動会	90.8	41.7	75.0	82.8	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
22	茶碗	82.6	50.0	54.2	55.2	76.9	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
23	家族	75.7	0.0	33.3	41.4	88.5	90.3	100.0	100.0	100.0	4歳前半
24	身体検査	75.2	8.3	37.5	37.9	80.8	90.3	100.0	100.0	100.0	4歳前半
25	橋	86.2	33.3	58.3	69.0	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	4歳前半
26	月	88.5	33.3	66.7	79.3	96.2	93.5	100.0	100.0	100.0	3歳後半
27	天気	79.8	16.7	41.7	65.5	73.1	93.5	100.0	100.0	100.0	4歳後半
28	台所	74.3	25.0	45.8	41.4	69.2	74.2	100.0	100.0	100.0	5歳前半
29	ナイフ	81.7	16.7	45.8	62.1	88.5	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
30	クモ	86.7	25.0	54.2	79.3	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳後半

表 5-1-2. 理解課題：名詞の語彙ごと (No.31~60) の平均正答率 (%) と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
31	噴水	71.6	16.7	37.5	37.9	73.1	77.4	92.9	100.0	100.0	4歳後半
32	うきわ	75.2	8.3	58.3	37.9	73.1	80.6	100.0	100.0	100.0	4歳後半
33	台風	65.6	0.0	0.0	37.9	69.2	71.0	95.2	100.0	100.0	5歳前半
34	楽器	68.3	0.0	29.2	34.5	61.5	83.9	92.9	100.0	95.5	4歳後半
35	さかさま	72.0	0.0	37.5	31.0	84.6	80.6	97.6	100.0	95.5	4歳前半
36	枝	74.8	16.7	45.8	48.3	80.8	87.1	92.9	90.0	100.0	4歳前半
37	切手	37.2	0.0	12.5	6.9	23.1	29.0	52.4	60.0	95.5	6歳前半
38	スキー	65.1	0.0	20.8	27.6	73.1	71.0	92.9	90.0	100.0	5歳前半
39	七夕	62.8	8.3	16.7	24.1	61.5	74.2	83.3	96.7	100.0	5歳前半
40	スポーツ	64.2	0.0	37.5	27.6	69.2	71.0	88.1	83.3	95.5	5歳前半
41	集合	55.5	0.0	20.8	10.3	57.7	58.1	78.6	96.7	81.8	5歳前半
42	演奏	53.7	0.0	12.5	10.3	61.5	58.1	78.6	80.0	90.9	5歳前半
43	満月	58.3	0.0	12.5	13.8	61.5	64.5	88.1	86.7	95.5	5歳前半
44	湯気	59.2	0.0	20.8	20.7	57.7	71.0	88.1	86.7	81.8	5歳前半
45	親切	41.7	0.0	12.5	10.3	26.9	35.5	66.7	70.0	81.8	6歳前半
46	海水浴	48.6	0.0	12.5	10.3	38.5	58.1	71.4	76.7	86.4	5歳後半
47	建物	55.0	0.0	8.3	6.9	57.7	58.1	85.7	96.7	81.8	5歳前半
48	食器	53.2	0.0	12.5	13.8	34.6	64.5	88.1	90.0	72.7	5歳前半
49	城	54.6	0.0	8.3	6.9	38.5	61.3	88.1	93.3	95.5	5歳前半
50	機械	44.0	0.0	0.0	6.9	26.9	54.8	76.2	70.0	77.3	5歳前半
51	自然	36.2	0.0	0.0	3.4	23.1	45.2	57.1	60.0	72.7	なし
52	季節	45.0	0.0	0.0	6.9	30.8	51.6	66.7	86.7	81.8	5歳後半
53	配達	64.2	0.0	12.5	13.8	61.5	83.9	92.9	100.0	100.0	4歳後半
54	勝負	56.9	0.0	8.3	6.9	57.7	64.5	88.1	90.0	95.5	5歳前半
55	交通	48.6	0.0	4.2	6.9	46.2	51.6	85.7	70.0	81.8	5歳前半
56	衝突	32.6	0.0	4.2	0.0	23.1	19.4	52.4	63.3	77.3	6歳前半
57	植物	50.0	0.0	8.3	3.4	34.6	64.5	71.4	86.7	95.5	5歳後半
58	植木鉢	33.5	0.0	12.5	6.9	11.5	19.4	50.0	73.3	72.7	なし
59	頂上	49.1	0.0	4.2	6.9	34.6	61.3	78.6	76.7	90.9	5歳前半
60	農業	20.2	0.0	8.3	0.0	7.7	9.7	35.7	33.3	54.5	なし

表 5-2. 理解課題：動詞の語彙ごとの平均正答率（%）と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	食べる	98.6	83.3	95.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
2	泣く	93.6	58.3	75.0	93.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
3	歌う	94.0	58.3	79.2	93.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
4	座る	89.4	33.3	66.7	93.1	96.2	87.1	100.0	100.0	100.0	3歳後半
5	溶ける	82.1	25.0	45.8	55.2	96.2	100.0	97.6	100.0	100.0	4歳前半
6	捨てる	88.5	66.7	58.3	79.3	96.2	93.5	100.0	100.0	100.0	3歳後半
7	飲む	95.4	75.0	83.3	89.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
8	見る	89.4	66.7	66.7	82.8	88.5	96.8	100.0	100.0	100.0	3歳後半
9	蹴る	85.3	41.7	50.0	65.5	96.2	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
10	乗る	78.0	50.0	54.2	58.6	84.6	80.6	81.0	96.7	100.0	4歳前半
11	帰る	80.3	41.7	54.2	55.2	92.3	83.9	97.6	93.3	100.0	4歳前半
12	押す	75.2	75.0	45.8	65.5	61.5	90.3	81.0	80.0	100.0	2歳後半
13	枯れる	63.3	8.3	25.0	41.4	46.2	71.0	85.7	86.7	100.0	5歳前半
14	打つ	38.5	0.0	8.3	10.3	26.9	35.5	52.4	56.7	100.0	6歳前半
15	進む	79.4	25.0	41.7	65.5	84.6	93.5	90.5	96.7	100.0	4歳前半
16	そろえる	67.4	0.0	33.3	37.9	69.2	71.0	95.2	86.7	100.0	5歳前半
17	めくる	75.2	25.0	45.8	34.5	76.9	90.3	95.2	96.7	100.0	4歳前半
18	拭く	72.9	16.7	29.2	41.4	76.9	87.1	92.9	100.0	100.0	4歳前半
19	育つ	71.6	8.3	29.2	51.7	69.2	90.3	92.9	96.7	86.4	4歳後半
20	描く	82.1	16.7	58.3	58.6	84.6	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
21	落とす	75.7	8.3	54.2	41.4	76.9	90.3	97.6	93.3	100.0	4歳前半
22	吠える	52.8	0.0	16.7	20.7	57.7	54.8	69.0	80.0	90.9	5歳後半
23	余る	53.7	0.0	4.2	27.6	34.6	54.8	88.1	90.0	81.8	5歳前半
24	住む	60.1	0.0	8.3	24.1	65.4	77.4	81.0	90.0	90.9	4歳後半
25	担ぐ	43.6	8.3	4.2	17.2	38.5	35.5	66.7	70.0	81.8	6歳前半
26	競う	13.8	0.0	0.0	6.9	15.4	12.9	14.3	20.0	36.4	なし

表 5-3. 理解課題：形容詞/形容動詞の語彙ごとの平均正答率（%）と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	大きい	93.6	58.3	79.2	100.0	96.2	96.8	97.6	100.0	100.0	3歳前半
2	きれい	86.7	33.3	79.2	62.1	96.2	96.8	97.6	96.7	95.5	3歳前半
3	寒い	84.9	33.3	66.7	75.9	80.8	96.8	100.0	93.3	100.0	3歳後半
4	速い	82.6	50.0	54.2	65.5	92.3	83.9	95.2	100.0	95.5	4歳前半
5	重い	76.6	25.0	50.0	58.6	88.5	83.9	90.5	93.3	90.9	4歳前半
6	冷たい	87.6	66.7	66.7	75.9	88.5	90.3	97.6	100.0	100.0	3歳後半
7	少ない	83.0	33.3	62.5	51.7	88.5	96.8	100.0	100.0	100.0	4歳前半
8	短い	50.0	16.7	20.8	17.2	57.7	54.8	66.7	70.0	72.7	なし
9	暗い	92.2	66.7	75.0	86.2	100.0	93.5	100.0	100.0	100.0	3歳前半
10	怖い	89.4	50.0	79.2	75.9	100.0	93.5	97.6	100.0	100.0	3歳前半
11	深い	58.7	33.3	16.7	27.6	42.3	61.3	81.0	86.7	100.0	5歳前半
12	広い	79.4	25.0	54.2	51.7	84.6	83.9	100.0	96.7	100.0	4歳前半
13	遠い	68.3	0.0	33.3	44.8	69.2	71.0	92.9	93.3	95.5	5歳前半
14	まっすぐ	74.8	8.3	37.5	41.4	92.3	80.6	97.6	100.0	95.5	4歳前半
15	辛い	90.4	50.0	66.7	86.2	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	3歳後半



表 6-1-1. 表出課題：名詞の語彙ごと (No.1~30) の平均正答率 (%) と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	象	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
2	ぼうし	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
3	傘	99.1	90.9	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
4	滑り台	97.3	72.7	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
5	電話	97.7	81.8	96.2	96.8	100.0	100.0	100.0	96.6	100.0	2歳後半
6	りんご	98.6	81.8	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
7	ズボン	98.6	90.9	92.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
8	花	98.2	90.9	88.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
9	時計	97.3	90.9	92.3	93.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
10	船	91.0	36.4	80.8	80.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
11	車	95.5	90.9	80.8	90.3	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
12	箸	94.6	63.6	84.6	90.3	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
13	かたつむり	94.6	72.7	76.9	96.8	92.6	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
14	魚	98.6	81.8	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
15	牛乳	95.9	72.7	92.3	93.5	92.6	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
16	黄色	80.6	27.3	53.8	67.7	70.4	90.3	100.0	96.6	100.0	4歳後半
17	白	93.2	54.5	88.5	87.1	96.3	96.8	100.0	96.6	100.0	3歳前半
18	トマト	97.7	90.9	92.3	96.8	96.3	100.0	100.0	100.0	100.0	2歳後半
19	花火	86.5	36.4	53.8	83.9	92.6	93.5	100.0	100.0	100.0	3歳後半
20	虹	84.7	36.4	61.5	67.7	92.6	93.5	100.0	96.6	100.0	4歳前半
21	電気	73.4	18.2	46.2	41.9	81.5	64.5	100.0	100.0	100.0	4歳前半
22	ボール	95.0	90.9	88.5	83.9	100.0	93.5	100.0	100.0	100.0	2歳後半
23	緑	90.1	54.5	76.9	83.9	92.6	93.5	100.0	100.0	95.5	3歳前半
24	ボタン	74.3	18.2	53.8	58.1	63.0	83.9	88.4	96.6	95.5	4歳後半
25	クモ	81.5	36.4	38.5	71.0	85.2	93.5	100.0	96.6	100.0	4歳前半
26	耳	86.0	36.4	73.1	71.0	85.2	96.8	100.0	96.6	100.0	4歳前半
27	茶色	73.4	18.2	42.3	51.6	74.1	83.9	97.7	86.2	95.5	4歳後半
28	月	83.3	54.5	65.4	67.7	88.9	87.1	93.0	93.1	100.0	4歳前半
29	歯	74.8	18.2	26.9	61.3	77.8	87.1	95.3	96.6	95.5	4歳前半
30	ピアノ	83.8	27.3	65.4	67.7	96.3	87.1	100.0	93.1	100.0	4歳前半



表 6-1-2. 表出課題：名詞の語彙ごと (No.31~60) の平均正答率 (%) と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
31	雪	47.7	9.1	26.9	22.6	44.4	41.9	67.4	51.7	100.0	6歳前半
32	動物	77.9	27.3	61.5	67.7	85.2	77.4	88.4	93.1	95.5	4歳前半
33	工事	55.0	0.0	26.9	48.4	66.7	61.3	62.8	58.6	86.4	6歳前半
34	桜	74.3	9.1	42.3	38.7	85.2	87.1	95.3	96.6	100.0	4歳前半
35	カレンダー	39.6	0.0	0.0	12.9	18.5	41.9	67.4	69.0	77.3	6歳前半
36	公園	79.3	9.1	53.8	67.7	85.2	90.3	100.0	93.1	86.4	4歳前半
37	台所	10.4	0.0	3.8	6.5	7.4	6.5	20.9	6.9	22.7	なし
38	注射	83.3	18.2	57.7	77.4	92.6	87.1	100.0	96.6	95.5	3歳後半
39	やかん	37.4	0.0	0.0	9.7	25.9	32.3	76.7	51.7	68.2	5歳前半
40	野菜	77.5	9.1	53.8	67.7	77.8	90.3	95.3	86.2	95.5	4歳前半
41	畑	47.7	0.0	3.8	19.4	44.4	48.4	72.1	79.3	81.8	5歳後半
42	歯医者	64.9	0.0	19.2	45.2	63.0	67.7	93.0	96.6	86.4	5歳前半
43	茶碗	34.2	18.2	11.5	12.9	29.6	41.9	44.2	34.5	77.3	6歳前半
44	スキー	24.3	0.0	11.5	9.7	14.8	6.5	44.2	41.4	50.0	なし
45	下	58.6	0.0	15.4	32.3	51.9	67.7	86.0	93.1	77.3	5歳前半
46	天気	18.0	0.0	3.8	3.2	18.5	9.7	27.9	31.0	40.9	なし
47	家族	37.8	0.0	3.8	16.1	14.8	29.0	60.5	72.4	81.8	6歳前半
48	橋	55.4	0.0	11.5	25.8	63.0	58.1	79.1	82.8	86.4	5歳前半
49	握手	33.8	0.0	3.8	12.9	33.3	22.6	53.5	58.6	63.6	なし
50	朝	45.0	0.0	3.8	19.4	44.4	41.9	55.8	89.7	81.8	5歳後半
51	さかさま	15.3	0.0	0.0	9.7	11.1	16.1	30.2	17.2	22.7	なし
52	飲み物	26.1	0.0	0.0	3.2	14.8	16.1	55.8	41.4	54.5	なし
53	右	33.8	0.0	3.8	0.0	29.6	32.3	60.5	62.1	54.5	なし
54	切手	5.9	0.0	0.0	0.0	3.7	6.5	9.3	13.8	9.1	なし
55	うきわ	39.2	0.0	7.7	9.7	29.6	25.8	51.2	82.8	90.9	5歳後半
56	噴水	18.5	0.0	3.8	9.7	3.7	12.9	34.9	24.1	45.5	なし
57	太陽	35.6	0.0	0.0	6.5	18.5	38.7	53.5	75.9	68.2	5歳後半
58	挨拶	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	9.3	17.2	27.3	なし
59	台風	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	9.3	24.1	18.2	なし
60	運動会	31.1	0.0	3.8	3.2	18.5	25.8	53.5	58.6	63.6	なし

表 6-2. 表出課題：動詞の語彙ごとの平均正答率（%）と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	食べる	84.7	45.5	53.8	61.3	88.9	100.0	100.0	100.0	100.0	4歳前半
2	座る	84.7	27.3	57.7	64.5	92.6	100.0	97.7	96.6	100.0	4歳前半
3	泣く	91.9	54.5	80.8	87.1	96.3	100.0	100.0	96.6	100.0	3歳前半
4	見る	87.4	45.5	61.5	77.4	85.2	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳後半
5	歩く	67.6	18.2	11.5	29.0	48.1	100.0	97.7	93.1	100.0	4歳後半
6	飲む	87.4	45.5	76.9	83.9	85.2	83.9	97.7	96.6	100.0	3歳前半
7	乗る	73.9	45.5	69.2	61.3	77.8	67.7	79.1	75.9	100.0	4歳前半
8	洗う	70.3	36.4	42.3	54.8	70.4	71.0	86.0	79.3	100.0	5歳前半
9	拭く	50.9	18.2	23.1	29.0	63.0	45.2	67.4	65.5	72.7	なし
10	降りる	50.0	18.2	50.0	35.5	51.9	41.9	62.8	62.1	59.1	なし
11	枯れる	39.2	0.0	0.0	19.4	25.9	35.5	62.8	65.5	77.3	6歳前半
12	捨てる	56.8	0.0	26.9	41.9	55.6	51.6	74.4	79.3	90.9	5歳後半
13	切る	72.1	9.1	53.8	74.2	81.5	83.9	76.7	79.3	77.3	4歳前半
14	絞る	42.3	0.0	3.8	22.6	33.3	38.7	60.5	79.3	72.7	5歳後半
15	蹴る	29.7	0.0	15.4	29.0	29.6	25.8	39.5	41.4	36.4	なし
16	吠える	18.0	0.0	3.8	6.5	3.7	12.9	20.9	44.8	45.5	なし
17	溶ける	43.7	0.0	7.7	12.9	18.5	54.8	62.8	72.4	95.5	6歳前半
18	ぶつかる	62.6	0.0	11.5	38.7	63.0	87.1	81.4	89.7	86.4	4歳後半
19	落とす	41.4	9.1	7.7	32.3	25.9	41.9	55.8	69.0	68.2	なし
20	咲く	18.9	0.0	3.8	9.7	14.8	12.9	34.9	27.6	31.8	なし
21	帰る	54.5	0.0	11.5	38.7	51.9	77.4	62.8	82.8	77.3	4歳後半
22	打つ	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	13.8	22.7	なし
23	そろえる	14.4	0.0	0.0	6.5	11.1	12.9	20.9	24.1	31.8	なし
24	余る	2.7	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	2.3	6.9	9.1	なし
25	押す	25.7	9.1	7.7	9.7	29.6	19.4	37.2	34.5	50.0	なし
26	運ぶ	11.7	0.0	3.8	3.2	11.1	6.5	16.3	17.2	31.8	なし

表 6-3. 表出課題：形容詞/形容動詞の語彙ごとの平均正答率（％）と 75％通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	小さい	73.0	54.5	50.0	64.5	66.7	83.9	79.1	86.2	90.9	4歳後半
2	きれい	39.6	9.1	15.4	41.9	25.9	41.9	44.2	58.6	63.6	なし
3	寒い	71.2	0.0	42.3	64.5	70.4	90.3	86.0	86.2	81.8	4歳後半
4	暗い	46.8	0.0	19.2	32.3	48.1	51.6	62.8	72.4	54.5	なし
5	重い	21.6	0.0	0.0	6.5	25.9	16.1	20.9	44.8	54.5	なし
6	怖い	46.8	18.2	30.8	29.0	40.7	48.4	51.2	75.9	68.2	5歳後半
7	辛い	64.9	27.3	42.3	29.0	51.9	83.9	81.4	93.1	86.4	4歳後半
8	広い	17.6	0.0	0.0	0.0	7.4	12.9	37.2	34.5	31.8	なし
9	遠い	28.4	0.0	15.4	3.2	25.9	25.8	34.9	48.3	63.6	なし
10	まっすぐ	30.6	0.0	7.7	0.0	29.6	41.9	41.9	55.2	50.0	なし
11	冷たい	43.2	0.0	11.5	35.5	44.4	38.7	60.5	55.2	72.7	なし
12	少ない	39.6	0.0	3.8	9.7	37.0	41.9	65.1	51.7	81.8	6歳前半
13	深い	19.8	0.0	0.0	0.0	11.1	9.7	39.5	34.5	50.0	なし
14	速い	34.2	0.0	0.0	6.5	29.6	38.7	44.2	72.4	63.6	なし
15	短い	22.1	0.0	0.0	6.5	14.8	25.8	39.5	31.0	40.9	なし

### 3-5. 動詞, 形容詞/形容動詞のヒント有を含めた平均正答率と 75%通過年齢

表出課題における動詞, 形容詞/形容動詞のヒント有を含めた平均正答率と 75%通過年齢を表 7-1, 表 7-2 に示す。

ヒント有では, ヒント無に比べ, いずれの語彙においても平均正答率が上昇し, 75%通過年齢はより低い年齢となった。

表 7-1. 動詞の語彙ごとのヒント有を含めた平均正答率 (%) と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	食べる	92.3	54.5	73.1	87.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳後半
2	座る	88.3	45.5	69.2	71.0	92.6	100.0	100.0	96.6	100.0	4歳前半
3	泣く	91.9	54.5	80.8	87.1	96.3	100.0	100.0	96.6	100.0	3歳前半
4	見る	91.9	45.5	76.9	83.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	3歳前半
5	歩く	67.6	18.2	11.5	29.0	48.1	100.0	97.7	93.1	100.0	4歳後半
6	飲む	93.2	54.5	88.5	87.1	92.6	100.0	100.0	96.6	100.0	3歳前半
7	乗る	86.9	54.5	80.8	74.2	88.9	93.5	93.0	89.7	100.0	3歳前半
8	洗う	82.0	36.4	57.7	64.5	77.8	96.8	97.7	93.1	100.0	4歳前半
9	拭く	63.1	27.3	34.6	41.9	70.4	61.3	81.4	72.4	90.9	5歳前半
10	降りる	61.7	27.3	50.0	48.4	63.0	58.1	76.7	79.3	68.2	5歳前半
11	枯れる	50.9	0.0	0.0	22.6	33.3	61.3	79.1	82.8	90.9	5歳前半
12	捨てる	68.0	9.1	42.3	51.6	66.7	67.7	88.4	86.2	95.5	5歳前半
13	切る	82.0	9.1	57.7	77.4	81.5	93.5	97.7	89.7	100.0	3歳後半
14	絞る	54.5	0.0	15.4	25.8	44.4	51.6	76.7	93.1	95.5	5歳前半
15	蹴る	54.5	9.1	26.9	32.3	63.0	54.8	69.8	82.8	68.2	5歳後半
16	吠える	20.3	0.0	3.8	6.5	14.8	16.1	23.3	44.8	45.5	なし
17	溶ける	52.7	0.0	7.7	16.1	37.0	61.3	83.7	79.3	100.0	5歳前半
18	ぶつかる	62.6	0.0	11.5	38.7	63.0	87.1	81.4	89.7	86.4	4歳後半
19	落とす	53.2	9.1	23.1	38.7	48.1	64.5	65.1	72.4	77.3	6歳前半
20	咲く	37.4	9.1	7.7	19.4	22.2	45.2	55.8	55.2	63.6	なし
21	帰る	62.6	18.2	11.5	48.4	70.4	83.9	72.1	89.7	77.3	4歳後半
22	打つ	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	9.3	17.2	31.8	なし
23	そろえる	29.7	0.0	3.8	12.9	25.9	25.8	46.5	51.7	50.0	なし
24	余る	4.1	0.0	3.8	0.0	0.0	3.2	4.7	6.9	13.6	なし
25	押す	49.1	9.1	11.5	25.8	48.1	45.2	67.4	72.4	90.9	6歳前半
26	運ぶ	33.8	0.0	11.5	19.4	25.9	48.4	37.2	48.3	63.6	なし

表 7-2. 形容詞/形容動詞の語彙ごとのヒント有を含めた平均正答率 (%) と 75%通過年齢

No.	課題語	全体	2歳後	3歳前	3歳後	4歳前	4歳後	5歳前	5歳後	6歳前	75% 通過年齢
1	小さい	92.8	63.6	84.6	100.0	96.3	96.8	93.0	100.0	95.5	3歳前半
2	きれい	60.8	36.4	42.3	51.6	59.3	61.3	69.8	79.3	72.7	5歳後半
3	寒い	84.2	27.3	61.5	77.4	92.6	93.5	95.3	100.0	90.9	3歳後半
4	暗い	72.5	27.3	57.7	61.3	77.8	80.6	86.0	86.2	72.7	4歳前半
5	重い	56.8	0.0	23.1	32.3	70.4	54.8	74.4	79.3	86.4	5歳後半
6	怖い	64.9	27.3	38.5	41.9	70.4	71.0	74.4	93.1	81.8	5歳後半
7	辛い	79.3	45.5	61.5	64.5	77.8	90.3	93.0	93.1	86.4	4歳前半
8	広い	36.9	0.0	0.0	9.7	48.1	32.3	67.4	55.2	50.0	なし
9	遠い	45.5	0.0	19.2	16.1	40.7	51.6	67.4	62.1	77.3	6歳前半
10	まっすぐ	48.2	0.0	11.5	3.2	55.6	64.5	76.7	69.0	68.2	5歳前半
11	冷たい	66.2	9.1	26.9	54.8	77.8	77.4	86.0	72.4	86.4	4歳前半
12	少ない	51.8	0.0	7.7	22.6	48.1	58.1	83.7	65.5	90.9	5歳前半
13	深い	27.9	0.0	0.0	3.2	25.9	12.9	53.5	44.8	63.6	なし
14	速い	69.4	0.0	23.1	45.2	77.8	87.1	95.3	93.1	81.8	4歳前半
15	短い	38.7	0.0	0.0	9.7	29.6	45.2	72.1	51.7	68.2	なし

### 3-6. 設定した正答と異なる回答について

課題語「台所」について、理解課題の全体の平均正答率は 74.3%であり、4歳後半で 74.2%、5歳前半で 100%に達した。同課題語の表出課題では、全体の平均正答率は 10.4%（回答数 23）と低く、年齢の増加に伴い増加傾向にあるものの、6歳前半でも平均正答率は 22.7%であった。その一方で、「キッチン」と回答した児は全体で 51.8%（回答数 115）に上った。

## 4. 考察

### 4-1. 年齢に伴う理解語彙，表出語彙の平均正答数の変化

いずれの品詞においても，年齢の上昇とともに理解語彙，表出語彙が増えることが確認された。理解課題については，3歳後半から4歳前半にかけて，正答数が大きく伸びる傾向を示した一方，6歳前半ではほぼ満点に近い正答数となり，天井効果であった可能性がある。表出課題については，いずれの品詞においても，年齢とともにゆるやかに増加し，6歳前半では満点に満たなかった。

今回の研究における最高年齢群である6歳前半の平均正答数は，理解課題；名詞 56.5，動詞 24.7，形容詞 14.5，表出課題；名詞 49.9，動詞 18.4，形容詞/形容動詞 9.5 であった。一方，水戸（2023）の報告における20年前のデータによる平均正答数は，理解課題；名詞 55.0，動詞 23.9，形容詞 13.6，表出課題；名詞 52.3，動詞 20.2，形容詞/形容動詞 12.0 であった。

どちらの調査においても各品詞の平均正答率は理解課題の方が高く，表出課題は低かった。また，いずれの品詞においても今回の調査の方が理解の正答率は高く，一方で表出の正答率は低かった。本研究と水戸ら（2023）とでは課題の施行順序などが異なるため，単純な比較はできないが，理解は表出に先行するという語彙発達の全体的傾向は変わらないと言えるであろう。20年前の結果と比較して「理解の正答率は高く，表出の正答率は低い」という点については，例えば情報端末デバイスなどの普及が子どもの語彙発達の様相に影響を与えた可能性なども考えられた。つまり，情報端末デバイスの利用によって，動画やゲームなどを通して手軽に様々な情報に触れる機会が増え，理解語彙の獲得につながった可能性がある。その一方で，人と人とのやり取りの機会が減少し，言葉を表出する機会が



減少したとすると、表出語彙の獲得に影響を与える可能性が推測された。

#### 4-2. 性別の影響

本研究で使用した語彙については、3歳後半では、理解課題、表出課題ともに動詞および形容詞・形容動詞にて女兒に比べ男児の方が平均正答率は有意に低く、3歳後半以降の群でいくつか散見された有意差においても、同様に女兒に比べ男児の方が平均正答率は低かった。

小椋、ほか(2016)は、日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙を用いた標準化データにて、生活年齢16か月から36か月で、女兒が男児よりも有意に得点が高い傾向を示したが、必ずしもすべての月齢で性差がみられたわけではないことを報告している<sup>3)</sup>。また Hadley, Rispoli, Hsu (2016) は、親と幼児の自由遊びセッションから動詞の獲得数と多様性について縦断的に調査をした結果、生活年齢21か月では女兒の方が語彙数は多いものの、後年には性差はなくなると報告している<sup>7)</sup>。

本研究においても、女兒の方が、高い正答率を示す傾向があったことは、先行研究と一致している一方で、本研究で有意差を認めたのは3歳以降であった。水戸(2023)は、直接課題と質問紙による結果では、同じ語彙でも75%通過年齢に半年の差がみられたことを報告しており、性差を認めた年齢の違いには、本研究と先行研究との調査方法の違いが影響した可能性が推測された<sup>13)</sup>。

#### 4-3. 地域環境の影響

本研究にて使用した語彙については、今回の対象年齢全体では、首都圏大都市と東北圏地方都市で語彙の習得に差はないことが示された。ただし、課題語「ゆき」のように、地



域によって経験の差が生じやすい事象については、子どもにとっての頻度や親密度が異なり、獲得年齢に差がある可能性が示唆された。

#### 4-4. 各語彙の平均正答率と75%通過年齢について

理解課題は、課題語の施行順序と平均正答率からみた難易度が概ね一致しており、水戸(2023)の先行研究の調査時に比べ、ほとんどの課題語は、獲得年齢に大きな違いはないと考えられた。一方で、一部の語では、75%通過年齢に差があると推測された。例えば、名詞「切手」(施行順序37)は、20年前の75%通過年齢が5歳後半であったが、今回の75%通過年齢が6歳前半であり<sup>13</sup>、理解語彙としての獲得は遅くなったと推測される。考え得る背景のひとつとして、ソーシャルネットワーキングサービスの普及により、「切手を貼り、手紙出す」といった場面に触れる機会の減少が挙げられるであろう。また同様に、「配達」(施行順序53)は、20年前の75%通過年齢が5歳後半であったが、今回の75%通過年齢は4歳後半であり<sup>13</sup>、理解語彙としての獲得は早くなった可能性がある。インターネットの普及とともに、例えば「Amazon」や「楽天」などの通信販売が身近になり、「荷物が届く」こと、すなわち「配達」に触れる機会が増えたことが背景のひとつであろう。これらのことから、子どもの語彙の獲得には生活環境が深くかかわっており、生活環境の変化は、語彙発達にも影響を与えることが示唆された。

表出課題は、年齢の上昇に伴い、各語彙の平均正答率も上昇していたが、いずれの品詞においても、課題語の施行順序と75%通過年齢の上昇は必ずしも一致はしておらず、特に施行順序後半の語彙は、6歳前半までに75%通過年齢を得ることができない語が散見された。20年前の調査で得られた各語彙の年齢群ごとの平均正答率降順の、難易度による施行順序であることを鑑みると、課題で用いた語彙については、獲得する年齢が上がっている

可能性とともに、語彙の獲得順序も変化している可能性が示唆された。

#### 4-5. 表出課題の動詞、形容詞/形容動詞のヒントについて

動詞は、ヒント有も正答に含めると、いずれの年齢群においても平均正答率が上昇していた。名詞に比し意味表象がより複雑である動詞は<sup>19</sup>、語彙の想起の難度がより高いと考えられる。名詞句ヒントが、心的辞書にある動詞の語彙、すなわちすでに表出語彙として獲得した語彙の意味表象を賦活し、動詞の喚語を促したと推測された。さらに本研究の課題の特徴として、名詞はイラストの事物そのものを認識し名称を喚語する一方で、動詞はイラストが示している動作を推測して喚語する必要があり、認知的判断を要すると考えられる。名詞句ヒントが、認知的判断の手掛かりとして機能した可能性があり、名詞と動詞には、適切な語彙の喚語に至るまでのプロセスに違いがあると推測された。

形容詞/形容動詞は、状態や様子を表す語であり、本研究の課題では、対語と課題語のイラストを視覚的に比較させ、知覚と経験に基づいた判断のもと、喚語する。音声言語による対語ヒントは、イラストをどのような形容詞/形容動詞で表すことが適切か判断することに寄与した可能性とともに、言語類推による回答となった可能性もある。いずれにおいても、名詞・動詞の課題と比較すると、ヒントが心的辞書にある形容詞/形容動詞の語彙の喚語を促したと推測された。

直接課題の留意点として、慣れない環境で参加した図版の指差しや呼称といった文脈のない課題の成績は、文脈のある日常場面での様子とは異なる可能性が指摘されている<sup>13</sup>。本研究で用いたヒントは、文脈のヒントとしても有用であった可能性があり、ヒント有を含めた結果は、日常場面で観察される様子により近い可能性がある。いずれにおいても、子どもの語彙発達を捉えるために、ヒントが喚語プロセスにどのように寄与しているのか、

今後検討の余地があるだろう。

#### 4—6. 設定した正答と異なる表現の回答について

表出課題の「台所」について、多くの子どもが「だいどころ」よりも「きッチン」と回答した。近年、マスメディアや家庭内でも、いわゆる台所を「キッチン」と表現することが増えたため、「だいどころ」より「キッチン」という表出語彙を獲得した子どもが多いと推測される。社会状況や環境の変化につれて、獲得語彙が変容した一例と捉えることができるだろう。

#### 5. 総括

本研究では、2歳～6歳児を対象に、先行研究をもとに作成した課題を用いて調査を実施し、標準的な言語発達の基礎的データを得た。

理解課題および表出課題ともに、全ての品詞において、年齢上昇に伴う平均正答数の上昇を認めた。性差は、両課題ともに、名詞では、いずれの年齢群においても有意差を認めないものの、動詞、形容詞/形容動詞では、主に3歳後半群にて、男児に比べ女児で平均正答率が有意に高いことを認めた。地域差は、両課題ともにいずれの品詞においても、明確な差は認められなかったが、地域によって経験の差が生じやすい事象については、子どもにとっての頻度や親密度が異なり、習得年齢に差がある可能性が示唆された。

## 6. 今後の課題

2歳～6歳児に調査を実施し、標準的な言語発達のデータから、幼児期の語彙発達の様相を明らかにした。今後は、2歳前半や6歳後半の幼児にも調査を行い、幼児期全体の語彙発達の様相の解明を試みる。さらに、表出課題にて6歳後半でも平均正答率が満点に満たない場合、対象年齢を広げることで就学前後の表出語彙の発達の様相を得られる可能性も視野に入れて、調査を続けていく予定である。

これらのデータをもとに、言語発達の遅れの早期発見と指導支援のエビデンスとしての指標となり得る検査の開発につなげていきたい。

## 7. 謝辞

この研究にご協力してくださった岩手大学教育学部附属幼稚園様、社会福祉法人清水地域福祉奉仕会ひよこ保育園様・ひよこ第2保育園様・ひよこ第3保育園様と、保護者様、園児の方々に心より感謝いたします。本研究の遂行と本論文の執筆にあたり、多大なご指導と励ましを頂戴いたしました。言語聴覚療法学専攻の教授原由紀先生、元教授石坂郁代先生に厚くお礼申し上げます。また、データの収集には、岩手大学教育学部の准教授鈴木恵太先生に多大なるご協力をいただくとともに、保健衛生学科精神保健学研究室の准教授深瀬裕子先生には、調査のご協力およびデータの処理について多くのご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。最後に、言語聴覚療法学研究室内の先生方には多くのご助言とご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

本研究は、公益財団法人 博報堂教育財団による第16回 児童教育実践についての研究助



成を受けたものです。

## 8. 引用文献

1. 石田宏代：幼児期から就学前の発達。言語聴覚士のための言語発達障害学第2版，石田宏代，石坂郁代，p.22-3. 医歯薬出版，東京，2016.
2. 小林春美：語彙の獲得。新・子どもたちの言語獲得，小林春美，佐々木正人，p.90-117. 大修館書店，東京，2008.
3. 小椋たみ子，綿巻 徹，稲葉太一：日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙の開発と研究，ナカニシヤ出版，京都，2016.
4. Marchman, V. A. and Bates, E. Continuity in lexical and morphological development: A test of the critical mass hypothesis. *J Child Lang* 1994; 21: 339-66.
5. Bates, E., Marchman, V., Thal, D., et al. Developmental and stylistic variation in the composition of early vocabulary. *J Child Lang* 1994; 21: 85-123.
6. Hadley, P. A., Rispoli, M., Hsu, N. Toddlers' verb lexicon diversity and grammatical outcomes. *Lang Speech Hear Serv Sch* 2016; 47: 44-58.
7. 小椋たみ子. 日本の子どもの初期の語彙発達. *言語研究* 2007 : 132 ; 29-53.
8. 大伴潔：I 言語発達障害発達（脳性麻痺を含む）【支援・指導法（療育・指導・訓練）】  
4. 発達レベル別. 図解言語聴覚療法技術ガイド，深浦順一，長谷川賢一，立石雅子，他，文光堂，東京，2014.
9. Gaskell, M. G. , Ellis, A. W. Word learning and lexical development across the lifespan. *Phil Trans R Soc B* 2009; 364: 3607-15.
10. 大森史隆，笠井新一郎，天辰雅子，ほか. 2 歳代の語彙発達. *九州保健福祉大学研究紀要* 2010 ; 11 : 119-26.
11. Horvath, S., Kueser, J. B., Kelly, J., et al. Difference or delay? Syntax, semantics, and verb vocabulary development in typically developing and late-talking toddlers. *Lang Learn Dev* 2022; 18: 352-76.
12. Hulme, C. and Snowling, M. J.: Developmental disorders of language learning and

- cognition. New Jersey: John Wiley & Sons; 2009. (原恵子, 大石敬子, 石坂郁代, ほか訳. 発達の視点からことばの障害を考える. p.135, 上智大学出版, 東京, 2016).
13. 水戸陽子, 原由紀, 石坂郁代. 2歳児から7歳児を対象とした語彙発達の横断的調査. コミュニケーション障害学 2023 ; 40 : 80-8.
  14. 大六一志, 渡辺 弥生. WPPSI-III知能検査. (Wechsler, D. Wechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence - Third Edition. The Psychological Corporation.). 日本文化社, 東京, 2017.
  15. 上野一彦, 藤田 和弘, 前川久夫, 他. WISC-IV知能検査 (Wechsler, D. Wechsler Intelligence Scale for Children - Fourth Edition. The Psychological Corporation.). 日本文化社, 東京, 2017.
  16. 国立国語研究所. 幼児の語彙能力. 東京 : 東京書籍 : 1980.
  17. 飯塚直美, 小寺富子, 倉井成子, ほか. 言語発達遅滞検査を用いた健常幼児の言語能力調査. 音声言語医学 1998 ; 39 : 245-53.
  18. 村田孝次 : 幼児の言語発達. 培風館, 東京, 1968.
  19. 萩野美佐子, 小林春美 : 第3章 語彙獲得の初期発達. ことばの獲得, 桐谷滋, p.72-80. ミネルヴァ書房, 京都, 1999.



## 9. 業績目録

### 【原著論文】

1. Mizuto Yoko, Hara Yuki, Suzuki Keita, Fukase Yuko, Kamioka Sayano, Hata Wakana, Murakami Takeshi, Ichikawa Masaru, Sawada Takuya, Ishizaka Ikuyo. Standardized vocabulary development of children aged 2–6 years. The Kitasato Medical Journal, 54,2024. (in press)
2. 水戸陽子, 原由紀, 石坂郁代: 2歳児から7歳児を対象とした語彙発達の横断的調査. コミュニケーション障害学 2023 ; 40 : 80-8
3. Hara Yuki, Hata Wakana, Mizuto Yoko, Murakami Takeshi, Ichikawa Masaru, Kamioka Sayano, et al. Relationship between stuttering symptoms and speech content in early childhood: explanation of "here-and-now" events and "non-here-and-now" events. The Kitasato Medical Journal 2022; 52 :112-8
4. Suzuki Keiko, Mizuto Yoko, Mochida Takemi, Sugimoto Takayuki, Yamazaki Yasuharu. Nasalance scores in normal adult Japanese speakers of the Tokyo dialect . The Kitasato Medical Journal 2022; 52: 90-7
5. Hata Wakana, Yoshizawa Kentaro, Hara Yuki, Murakami Takeshi, Ichikawa Masaru, Mizuto Yoko, et al. Changes in the speech behavior of Japanese adult speakers who stutter: Speech analysis using acoustic measurements after three fluency shaping treatments. The Kitasato Medical Journal 2022; 52: 98-104
6. Hara Yuki, Hata Wakana, Mizuto Yoko, Murakami Takeshi, Ichikawa Masaru, Kamioka Sayano, et al. Relationship between stuttering symptoms and speech content in early childhood: explanation of "here-and-now" events and "non-here-and-now" events. The Kitasato Medical Journal 2022; 52: 112-8
7. Sayano Kamioka, Ikuyo Ishizaka, Keita Suzuki, Yuki Hara, Wakana Hata, Yoko Mizuto. Development of a Screening Test for the Early Identification of Japanese Children with Difficulties Learning English: A Preliminary Study. Progress in Rehabilitation Medicine 2022; 7: 20220038.
8. 水戸陽子, 鈴木恵子, 石坂郁代, 広瀬宏之, 高橋優宏: 指文字、文字を介して音声言語を獲得した難聴重複障害児一事例の言語発達の経過. コミュニケーション障害学 2020 ; 37 : 21-7

9. Hara Yuki, Higashikawa Mari, Hata Wakana, Sasaki Yuri, Murakami Takeshi, Mizuto Yoko, et al. Selection of screening items for stuttering: a preliminary study. *The Kitasato Medical Journal* 2020; 50 :123-9
10. Higashikawa Mari, Motoki Yuichiro, Hara Yuki, Murakami Takeshi, Hata Wakana, Mizuto Yoko, et al. The effects of speech therapy for aphasic patients in Japan on linguistic function, functional communication ability in daily life, and non-linguistic intelligence. *The Kitasato Medical Journal* 2020; 50: 73-9
11. 水戸陽子, 吉村拓馬, 恵良美津子, 石坂郁代, 広瀬宏之: 広汎性発達障害に言語面の弱さがみられる選択性緘黙児に対する言語聴覚療法の経過. *小児の精神と神経* 2017; 57 : 205-12
12. 水戸陽子, 鈴木牧彦, 石坂郁代: 学齢期の認知機能に対する注意力の影響. *音声言語医学* 2017 ; 58 : 127-34

【著書】

1. 水戸陽子. CCC-2, STRAW-R. WAVES, LC-スケール, LCSA, 太田ステージ評価. 特別支援教育に生きる心理アセスメントの基礎知識 第2版(滝吉 美知香, 鈴木 恵太, 名古屋 恒彦編), 東洋館出版, 東京, 2023
2. 水戸陽子. 注意欠如・多動性障害. 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版(深浦 順一, 藤野 博, 石坂 郁代編), 医学書院, 東京, 2021
3. 水戸陽子. 注意欠如・多動性障害. 言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版(石田 宏代, 石坂 郁代編), 医歯薬出版, 東京, 2016

【過去の研究助成費採択実績】

1. 2023 年度医療衛生学部特別研究費 (奨励 A)  
課題名: 新たな表出・理解語彙発達検査の開発 (継続)  
代表者 申請額: 225,000 採 択
2. 2022 年度医療衛生学部特別研究費 (奨励 A)  
課題名: 新たな表出・理解語彙発達検査の開発 (継続)  
代表者 申請額: 450,000 採 択
3. 2021 年度博報堂教育財団 第 16 回 児童教育実践についての研究助成【2 ヶ年】  
課題名: 新たな表出・理解語彙発達検査の開発  
代表者 申請額: 2,800,000 採 択

4. 2021 年度医療衛生学部特別研究費（奨励 A）

課題名：新たな表出・理解語彙発達検査の開発（継続）

代表者 申請額：250,000 採 択

5. 2020 年度科研費（若手研究）（2020～2024）

課題名：社会的相互作用の発達の観点による言語語用面の弱さに対する指導法の開発

代表者 申請額：1,430,000 採 択

6. 2020 年度医療衛生学部特別研究費（奨励 B）

課題名：新たな表出・理解語彙発達検査の開発（新規）

代表者 申請額：300,000 採 択